研究成果の公開

公開ワークショップ・パフォーマンス

表現で出会う・表現でつながる「インド刺繍〜思いと出会う・願いでつながる〜」

日時：2011年6月5日（日）10：00〜16：30
会場：国立民族学博物館
主催：国立民族学博物館文化資源プロジェクト「表現で出会う・表現でつながる」
共催：科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業（JST CREST）「人を引き込む身体性メディア場の生成・制御技術」
協力：みんなのダンスフィールド
企画：西 洋子（国立民族学博物館特別客員教員）

公開で身体表現のワークショップを行った。今回、インド刺繍をテーマに据えたのは、インド刺繍は、すきまなく縫いこまれた繊細な文様、鮮やかな色彩、キラキラと輝きを放つミラーなど、魅力的な表現のかたちをもっており、日々の暮らしの中で育まれ、縫い手の心がこめられた美しさにあふれているからである。ワークショップでは、インド刺繍を通して、さまざまな人たちの思いや願いと出会い、つながり合いながら、からだでの表現を楽しんだ。また、新しいメディア技術を用いて、「針やミラーになったような気持ち」で広い空間に表現を創りだす体験も試みた。からだから異文化に接近することで、どんな感覚が芽生えるのか、東京を拠点とする《みんなのダンスフィールド》のメンバーと関西の参加者とが一緒になって、表現活動を展開した。博物館という場で、障害のある人やない人、女性や男性、子どもや大人の個性と感性が、思いと願いが、そして共創を支援する新しいメディアが、《表現で出会う・表現でつながる》1日となった。

左に英語手話通訳、右に日本語手話通訳。

国際ワークショップ

手話の歴史言語学——データベースの構築と一般歴史言語学における展開を目指して——

日時：2011年7月28日（木）8：30〜12：40
場所：国立民族学博物館 講堂
主催：人間文化研究機構、国立民族学博物館、日本手話研究所、国立国語研究所
助成：日本万国博覧会記念機構
企画：大杉 豊（筑波技術大学）、菊澤律子（国立民族学博物館）

音声言語にたくさんの言語や方言があるように、手話言語にもさまざまな言語や方言がある。また、ことばは音声言語・手話言語を問わず、時代とともに変化する。今回のワークショップでは、手話がどのように発達してきたのかを知るための研究と、その研究をささえるデータベース作りの手法について、日本手話やアメリカ手話はもちろんのこと、東南アジアや東アジアの手話言語にも触れながら議論を展開した。国際歴史言語学会の一分科会を一般に公開したもので、専門的な内容であったが、関心のある方が集まり活発な討論が行われた。

機関研究プロジェクト
「ケアと育みの人類学」国際シンポジウム

アジアにおける生殖補助技術と子どもの誕生・親族・ジェンダー

日時：2011年9月8日（木）13:00〜18:30
場所：国立民族学博物館（第6セミナー室）
主催：国立民族学博物館、パリ・デカルト大学人口開発研究所（CEPED）
企画：鈴木七美（国立民族学博物館）

機関研究プロジェクト「ケアと育みの人類学」の課題は、人々が他者や自分自身のウェルビーイングへの配慮としての「ケア」を志向し実践することにより、人間関係、環境、そして自らのありかたを、一生を通してどのように変化させてゆくのかという「育み」に関し比較検討することである。このことにより、人間文化研究を深化させ、現代社会の諸課題を考察するうえで不可欠の資料を提示する。次世代育成は、人々をとりまく新たな人間関係、さらに社会の構成に関わるテーマである。子どもの誕生に関わるさまざまな選択を可能とする医療技術が開発されている現代社会において、次世代をめぐる構想や実践に関し近年活発な議論がなされているアジア諸地域の動向は、「ケアと育みの人類学」の重要研究領域の一つとして注目される。そこで本プロジェクトの成果公開の一環として、「アジアにおける生殖補助技術と子どもの誕生・親族・ジェンダー」について、フランス国立パリ・デカルト大学・教授／人口開発研究所シニアリサーチフェローであるクリストフ・Z・ギルモト氏をはじめ、新生殖技術とアジア地域社会に関する研究を推進してきた文化人類学者を招聘し、議論を深めた。本シンポジウムの目的は、子どもの出生に関わる選択への関心と実践を比較的に検討することを通して、新生殖技術時代の社会における家族・親族、ジェンダーをめぐる考え方とその変動について考察することであった。